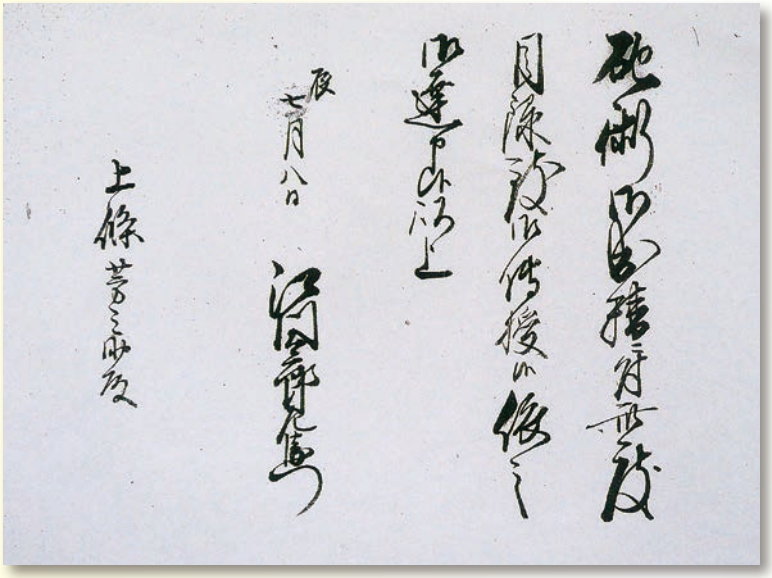
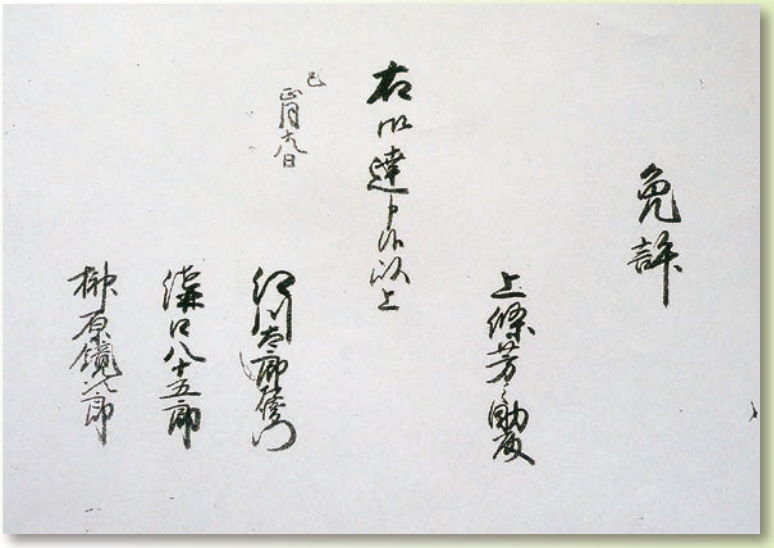
沼津市明治史料館通信
二〇二一年四月
通巻145号

■ぬまづ近代史点描83
上條上と上條源次郎―沼津勤番組に属した兄弟―
■令和２年度新収資料の紹介
■令和２年度当館収蔵資料の利用
■史料館からのおしらせ



上條上（芳之助）の高島流砲術目録
（上條隆也氏所蔵）

辰年７月８日。辰年は安政３年（1856）。



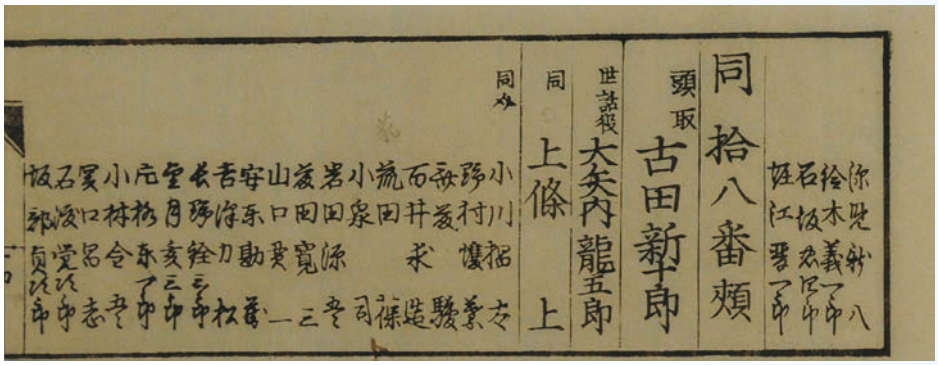
上條上（芳之助）の高島流砲術免許
（上條隆也氏所蔵）

巳年正月18日。巳年は安政４年（1857）。榊原鏡次郎は江川坦庵の女婿だった旗本で、歩兵頭並・講武所砲術師範役などを歴任したほか、芝新銭座大小砲習練場では師範代の任にあった。溝口八十五郎（勝如・八十郎・伊勢守）は坦庵没後の江川家を後見し、大小砲習練場の設立にも尽力した勘定奉行松平河内守近直の次男で、自らも大小砲習練場総取締となったほか、使番・目付・歩兵奉行・陸軍奉行・勘定奉行などを歴任、静岡藩では家令をつとめた。

ぬまづ近代史点描 83

上條上と上條源次郎 ―沼津勤番組に属した兄弟―

沼津に勤務した静岡藩士の名簿『沼津御役人附』（明治二年刊）に「上條上」という変わった名前の人名が掲載されている。彼は、沼津とその周辺を移住地に指定された旧幕臣たちのうち、無役の者たちを組織した沼津勤番組の十八番頭（頭とは班・組のこと）において世話役という役職をつとめた。もう一人の世話役である大谷内龍五郎が彰義隊の元幹部だったことが象徴しているように、十八番頭の所属者の多くは彰義隊の生き残りであり、武闘派としての同志的な結合を保ちつつ、その移住地は現在の沼津市香貫地区から清水町付近に散在していた。しかし、上條上は彰義隊とは無関係であり、他の者たちが新政府や藩庁に反発して不穏な動きを見せないよう、「お目付」的な意味で配属されたのかもしれない。上條上の名は、明治四年（一八七一）時点での史料で十五番頭世話役になっており、後に転役したらしい。



『沼津御役人附』の沼津勤番組十八番頭の部分
（当館所蔵）

幕臣時代の上條上
ガラス板写真
（上條喜靖氏所蔵）

各種史料・文献などからは、上條上の以下のような経歴が判明している。名前の「上」が「のぼる」と読むことは、ご子孫の証言による。改名前は芳之助と称した。生まれは天保一〇年（一八三九）一月二〇日。幕末には韮山代官兼鉄砲方江川太郎左衛門英敏の門下で高島流砲術を学び、安政三年（一八五六）七月に目録、翌年一月に免許を受けるとともに、江戸芝新銭座にあった江川家主宰の大小砲習練場で鞍正兼頭取をつとめたほか、講武所にも勤務した。万延元年（一八六〇）一〇月外国奉行手附出役、文久元年（一八六一）五月外国奉行支配御用出役、同三年九月別手組出役と歴任し、元治元年（一八六四）には父源次郎の隠居により御徒の家を継いだ。慶応二年（一八六六）九月には富士見御宝蔵番格銃隊差図役並勤方となっており、慶応期には八〇俵五人扶持を給され、江戸牛込中御徒町に住んでいた。駿河移住予定者名簿「駿河表召連候家来姓名」では陸軍用取扱に入っている。維新後は静岡藩士を経て、廃藩置県後には熊谷県七等警部・群馬県九等属などを歴任し前橋に住んだ。明治四三年（一九一〇）四月二〇日没。墓石は駿東郡清水町新宿の共同墓地にある。

上條上には、嘉永元年（一八四八）三月一七日生まれの源次郎という名の弟がいた。源次郎は同家の襲名だったらしく、上・源次郎兄弟の父親も源次郎といった。清水町新宿にある墓石によれば、父源次郎は文久三年（一八六三）七月三〇日に没。上の弟源次郎は、明治以前には梅之助と名乗り、慶応二年（一八六六）六月から歩兵差図役下役をつとめ長州征討に従軍。『御進発御用掛』（慶応元年五月、出雲寺万次郎刊）に、御徒頭川村清兵衛配下の組頭として記されている「上条源次郎」は別人か。同三年時点では御料兵一番中隊に属していた。江戸無血開城に際しては脱走軍に加わり、竜興隊（御料所歩兵大砲隊）の一員として新政府軍に抵抗し北関東を転戦した。しかし、「烏合ノ衆軍令区々ニ分レ一致スルコト能ハス」（喜多家所蔵「源次郎一代略記」）との理由から四月二六日には

熊谷県警部だった頃の上條上
ガラス板写真
（上條喜靖氏所蔵）

熊谷県か群馬県の官吏時代の上條上
ガラス板写真
（上條喜靖氏所蔵）

戦線離脱した。同じ脱走軍兵士だった田中恵親が記した戦記「慶応兵謀秘録」にも「日光より飯岡と共に脱走　上條梅之助」と記されている。

戦場からもどった梅之助は兄を頼り駿河に移住し、駿東郡新宿村（清水町）に住むこととなった。源次郎と改名したのはそれからであろう。兄の厄介の身であるため自活の道を講じ、建具の製造や水車による製粉業などを営んだ。やがて蓄財して土地を購入し、産業会社という銀行類似会社の経営にも参加した。官吏となった兄に対し、弟は民間でたくましく近代の地域社会を生きたといえる。源次郎の四男四郎は兄上の家を養子として継ぎ、源次郎の跡は長男梅之助が継いだ。源次郎は昭和一〇年（一九三五）八月一七日、九〇歳の高齢で没、菩提寺である三島市・本覚寺に眠る。妻金は沼津移住旧幕臣金田正直の娘だった。

昭和一五年（一九四〇）四月時点での「沼津葵会々員名簿」（謄写版）には、上條四郎・上條梅之助の名が掲載されている。同会は旧幕臣子孫の親睦団体であり、上條家の人々は世代を経てもその意識を持ち続けていたことがわかる。

ちなみに、維新前の上條家の菩提寺は、現東京都文京区に所在する真珠院だった。偶然ながら真珠院は沼津藩主水野家の菩提寺でもあるが、同寺の檀家には上條姓の幕臣の家が他に二軒ある。先祖が勘定などをつとめ、幕末・明治期の当主三代が栄太郎（新御番）・忠五郎（小普請）・好徳（静岡学問所教授長谷部甚弥の女婿）といった家は高一〇〇俵で、田中（現藤枝市）の割付となり、実際には静岡に移住した。さらに別の一軒からは、海軍兵学寮や開拓使仮学校の生徒になった上條信敬という人物が出ているらしい。三軒の幕臣上條家は一族ではないかと推測されるが、現在のところ、本家・分家関係など詳しいつながりは不明である。

末筆ながら本稿作成には、大原孝・上條隆也・上條喜靖・上條宏・上條佐恵子・小林幸枝の諸氏と伊豆の国市郷土資料館のお世話になった。記して感謝申し上げる。

上條源次郎
大正期
（上條宏氏所蔵）

〔参考文献〕

『改訂維新日誌』第六巻（一九六六年、名著刊行会）、『北大百年史　札幌農学校史料（一）』（一九八一年、ぎょうせい）、「しづのおだまき」（『続日本随筆大成』12、一九八一年、吉川弘文館）、『江戸幕臣人名事典』第二巻（一九八九年、新人物往来社）、韮山町史編纂委員会編『韮山町史第六巻（下）』（一九九四年、韮山町史刊行委員会）、拙稿「脱走旧幕府軍兵士の戊辰戦記―塩谷敏郎「戊辰ノ変夢之桟奥羽日記」の翻刻―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第一五〇集、二〇〇九年）、『徳川幕臣人名辞典』（二〇一〇年、東京堂出版）、『吉川市史　資料編　近世』（二〇一二年、吉川市）、上條喜靖『荒波を乗り越えて上條家と秋山家』（二〇二〇年、私家版）

（樋口雄彦）

令和２年度新収資料の紹介

昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

寄贈	上野　芳男 様	重須土屋家（つき屋）資料
	齊藤妙枝子 様	佐々木古桜画幅他13点
	原　中　学　校	典籍類
	杉山　真理 様	軍事郵便葉書など
	秋鹿　敏雄 様	徴兵通達関係
	高田　　良 様	井田高田家資料
	海野　佳子 様	岳陽少年団写真
	神戸ウメ子 様	沼津城絵図・沼津城二ノ丸御殿図・沼津城食違門絵図
	地域コミュニケーション研究会 様	宇田雨柳書画幅・沼津古城図幅・井口省吾書幅
	井上　泰秀 様	『静岡県聖火リレー』
寄託	渡邊　大輔 様	江原素六書簡・水野忠敬詠歌短冊
購入	**沼津藩関係** 水野忠義詠歌短冊・水野忠敬詠歌短冊・中山長明『颶風論』	

購入

沼津兵学校関係

渡部温編『西洋蒙求』・塚本明毅書簡・山本淑儀訳『風論書』・中根淑校閲『支那史略』・写真「石橋絢彦」・中川将行『羅針儀自差論』・堤永類『簿記学教程』・水野勝興（写真掲載）『実業之日本　第18巻第３号』・三田佶宛安田善次郎書簡・斎藤修一郎書簡・平井参著『漢文購読　四、五学年』・小川安村著『梅譜』・井口省吾書色紙額と詠歌短冊・林洞海写本「写本繃帯小識」・「篠原家文書写」

旧幕臣関係

旧幕臣福田家文書・村松良粛（静岡藩静岡病院医師）『斯道贄言』

江原素六関係

江原素六書簡・「麻布中学校明治四十四年三月学年試験成蹟表」・「東京市制案」・「未成年者飲酒禁止法案」・「関税定率法輸入税表中改正案」

沼津の歴史関係

看板「東方司目薬販売所」・沼津毛織株式会社のポスター・田村竹琴著『竹琴唱歌』

令和２年度当館収蔵資料の利用

明治史料館の資料がいろいろなところで活躍しました。

☆展示使用

７月	竹下穂積「絵で見る歴史展　浮世絵に描かれた沼津」千本プラザミニギャラリー　浮世絵（複製）15点
11月～５月	琵琶湖疏水記念館　特別展「田邉朔郎の一生」　田邉太一佩刀（当館寄託）

☆刊行物掲載

４月	株式会社アフロ　株式会社新学社社会テスト４年　「小林村変地之図」（『地震之記』） 常盤町自治会『千本常盤町のあゆみ』絵葉書「沼津千本松原」など12点、古写真「空襲後の沼津市街地」など４点
５月	有限会社有志舎『明治国家形成期の政と官』樋口雄彦「勝海舟と静岡藩の御貸人」　写真「勝海舟」
６月	駿農業協同組合　沼津茶「素六」説明リーフレット　写真「江原素六」
７月	沼津市役所『広報ぬまづ』７月１日号　写真「市政施行当時の市役所」
８月	羽衣出版　伊藤稔『日本近代造船の礎　ヘダ号の建造』『地震之記』より４点
10月	株式会社小学館　おおたとしまさ『麻布という不治の病　めんどくさい超進学校』　写真「江原素六」 沼津市『沼津御用邸記念公園開園50周年記念誌』　沼津城周辺図・駿河国駿東郡沼津町略図・沼津市全図
11月	NPO法人地域づくりサポートネット　静岡市『次郎長生誕200年記念事業　清水の次郎長物語　次郎長が夢みた清水港』　写真「山岡鉄舟」 勉誠出版　大藏八郎『新彰義隊戦史』　錦絵「江川隼太郎永脩」写真「江川永脩」
12月	株式会社KADOKAWA　高橋敏『江戸のコレラ騒動』「小林村変地之図」「戸田に上陸したプチャーチン」（『地震之記』） 篠田雄一『日本の吹奏楽黎明期に関する資料～イラストで見る日本国吹奏楽の歴史～』　写真「乙骨太郎乙」
２月	中央公論新社　井上さつき『ピアノの近代史』「ピアノ輸入税に関する陳情書」（旧幕臣箕輪家資料） 沼津市歴史民俗資料館『沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具　Ⅲ解説（概要）１』　絵葉書「（沼津名勝）江ノ浦池巣」「駿州沼津　千本浜の夕照」
３月	樋口雄彦「葉舟の父水野勝興と旧幕臣としての水野家」（『成田市史研究』45　成田市教育委員会）　江原素六宛水野勝興書簡（江原素六関係文書） 静岡県『静岡県史　別編４人口史』「石川村絵図」（石川森家文書・当館寄託） 井上さつき「1920年代の日本楽器製造（現ヤマハ）について―箕輪焉三郎文書を通して―」（『愛知県立芸術大学紀要』第50号）　写真「箕輪焉三郎」など（旧幕臣箕輪家資料） 嘉治憲夫講演録「『田口卯吉・上田敏』―国登録有形文化財「田口家住宅」の歴史と関りのあった方々―」附編集部から「田口卯吉書簡」（『明治大正名士書簡集』より）・神山明久「ナゾ解き！発見伝　渋沢栄一と沼津　その足跡を探る」写真「岳陽少年団　御用邸で木太刀献上式」（『岳陽少年団』より）（沼津郷土史研究談話会『沼津史談』72号））

☆テレビ等映像・その他

７月	株式会社テレビマンユニオン　TBS「世界ふしぎ発見！」　写真「江原以下男性４名」 テレビ朝日映像株式会社　テレビ東京「大漁JAPAN」　絵葉書「沼津千本濱の富士」
10～11月	県立三島南高等学校演劇部『語り継ぐこと』静岡県高等学校演劇研究大会（東部・県）　写真「大手町の焼け跡」
11月	井上さつき「1920年代の日本楽器製造（現ヤマハ）について―箕輪焉三郎文書を通して―」（日本音楽学会第71回全国大会）写真「箕輪焉三郎」
12月	沼津商工会議所ホームページ内「オンライン商店街観光ツアー」　写真「沼津駅」（昭和38年） 浅田哲司　講演「原宿の人とその家」・「白隠さんと文化財―文化財指定とその意義―」

人事異動

３月31日付で館長井原正利、学芸補助員大庭晃が退職、４月１日付で館長後藤克裕、学芸補助員大岩史織が着任しました。今後ともよろしくお願いいたします。

沼津市明治史料館通信

第145号

令和３年４月25日

編集・発行　沼津市明治史料館

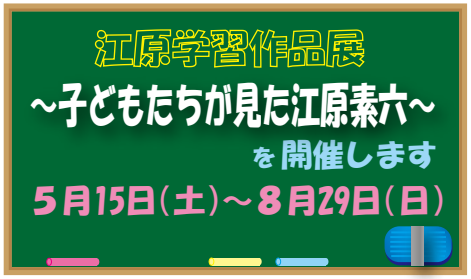
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL 055－923－3335

FAX 055－925－3018

印刷　みどり美術印刷株式会社

お　し　ら　せ



恒例になっていた「そろくまつり」はコロナウイルス感染症の影響で中止になってしまいましたが、作品展だけはぜひ開催しよう！ということで、今年も金岡・門池・沢田・開北小学校の児童の作品を展示します。展示期間も夏休みまで延長しましたので、ぜひご覧ください。

当館HPにて『明治史料館通信』PDF版を公開しました！ すべての『通信』がご自宅のPCやスマートフォンでも、当館HPにアクセスするだけで、いつでもどこでも閲覧・ダウンロード可能になりました。

さらにお手軽にご覧いただけるようになった『通信』をこの機会にぜひご活用ください！